

の指数平滑法採用の提案（小河原正巳）、調和解析とスペクトル解析を有機的に併用して、時系列変化を周期変化、擬似周期変化（Quasi-Cycle）、ノイズを3成分に分離する手法（Essenwanger）などがあり、天気時系列（降水の有無）へのマルコフチェインモデルの適用も3編ある。ローカルな気候を取り上げたものは少ないが、インドの諸学者によるモンスーン等に関する論文数編と、東アフリカの年降水量による地域分類（Ogallo）がある。

(4) 多変量解析と極値統計、特に前者については論文数も多く、一般線形モデルの解法（鈴木栄一他）など、実用されそうな新しい技法もいくつか含まれている。

(5) これと反対に、統計学者による論文の一部には基礎的、統計学的で、気候、気象への応用についてはその

可能性を若干述べているもの、全く応用にふれていないものがあり、今後どのように応用されるか私には見当がつかないものもある。内容の理解不足のほかに、たとえば、工学的発明が直ちに実用化に結びつくわけではなく、製品化されるまでに多くの研究段階が必要なのと同様な事情があると思われる。今後の実用化に向けて、統計学者と気候学者の交流と協力が必要であろう。

以上を要約して、気候学の研究者および統計的手法に関心がある気象学の研究者にとって、ユニークで有益な論文集であるといえよう。将来の問題としては、広義の統計気候学の分野について、さらに系統的、解説的なテキストが、統計学者と気候学者の協力によって準備されることを望みたい（以上敬称略）。（菊地原英和）

第21期第18回常任理事会議事録

日時 昭和57年2月15日（月）9.45～12.30

場所 東京管区気象台第一会議室

出席者 岸保、小平、浅井、荒井、内田、杉村、竹内、二宮、増田、村山

議題

1. 昭和57年度予算案について
荒井理事から、会員数を2月1日現在とした予算案の修正資料の説明があり一部訂正し、地方理事に配布して意見を求めた上で3月の常任理事会で決定したい旨了承された。
2. 「気象集誌」特別号の書店扱い価格について
印刷部数2,000部の見積価格が650万円で1冊当り3,250円となった。書店価格を3,200円としたが原価を割らないようにとの意見があった。
3. 岡田賞候補者の推薦について
近く各賞推薦委員会を開いて候補者を決めたい。
4. 100周年記念式典の実行委員について
小平、荒井、黒木各理事を実行委員とすることが了承された。
5. 外国関係機関への招待リストについて
31カ所の関係機関へ、記念式典の招待状を出すこと

が了承された。

6. シンボルマークについて

入選作は該当なく、佳作3点が示された。これについて村山、増田、杉村各理事が検討した結果、多少手直しした案が示されたが、専門家に修正してもらったものを次回理事会に提出することになった。

7. 第8回レーザーレーダーシンポジウムへの協賛について

協賛することを了承した。

8. その他

(1) 秋の熱帯気象学に関する地域科学会議については、110万円の予算のところ、気象研究所での予算組みでは165万円必要とのことであるが、不足の55万円はレジストレーションの費用で賄いたいとのことである。

(2) 南極委員会について

杉村理事から、一応初期の目的を達したので今限りで活動をとりやめたい旨の発言があり了承された。

承認事項 倉田隆喜ほか16名の新入会員を承認。